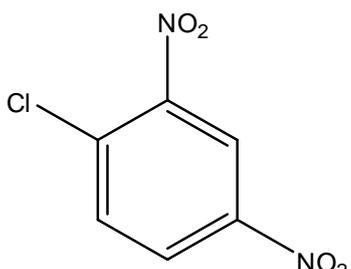


反復投与毒性・生殖発生毒性併合試験(OECD TG422)データシート

官報公示 整理番号	3-454	CAS No.	97-00-7
名称 構造式等	<p>名 称：1-クロロ-2,4-ジニトロベンゼン 別 名：1,3-Dinitro-4-chlorobenzene、1-Chloro-2,4-dinitrobenzene、Dinitrochlorobenzene、DNCB 分子量：202.55 分子式：C₆H₃ClN₂O₄ 構造式：</p> 		
外観	薄い黄色～薄い緑の黄色結晶		
溶解度	水に不溶(8 mg/L、15°C)、クロロホルムに易溶、アルコール・エーテル・ベンゼン・四塩化炭素・二硫化炭素に可溶		
分解性	難分解性		
蓄積性	低濃縮性		
純度	99.9%		
用量設定 試験	投与用量	0, 30, 100, 300, 600 mg/kg/day	
	投与期間	14 日間	
	主な結果	<p>♂30：ALT↑、AST↑ ♂30以上：体重g↓、摂餌量↓、Na↑ ♂100：MCH↓、MCHC↓、好酸球比↓、ALP↓、K↑、Cl↑、脾臓g↑ ♂300：死亡(2/3) ♀300：体重g↓、摂餌量↓、MCV↑、MCH↓、MCHC↓、好酸球比↓、リンパ球比↓、好中球比↑、TP↓、Alb↓、A/G比↓、胸腺g↓、肝臓g↑、脾臓g↑、副腎g↑ ♂♀30以上：流涎、着色尿、前胃壁の肥厚 ♂♀100・300：自発運動の低下、貧血様、鼻周囲あるいは下腹部の汚れ、脾臓の腫大、腺胃粘膜のびらん/潰瘍 ♂♀100以上：RBC↓、Hgb↓、Hct↓、Plt↑、RET↑ ♂♀600：死亡(♂1/3、♀2/3)</p>	
反復経口投与毒性・生殖発生毒性併合試験 (ReproTox)			
投与	使用動物	CrI:CD (SD)ラット、投与開始時 9 週齢	
	投与方法	強制経口投与 溶媒：精製水(0.1w/v%Tween80 添加 0.5w/v%CMC-Na)	
	投与用量	0, 1, 6, 30 mg/kg/day, 回復群 0, 30 mg/kg/day (R 30)	
	投与期間	♂42 日間、♀42-54 日間	
反復投与 毒性 主な結果	一般状態	♂♀：着色尿(30)	
	行動機能 観察	影響なし	

	体重	影響なし
	摂餌量	影響なし
	尿	影響なし
	血液学	♀：MCHC ↓ (30)、WBC ↑ (30)
	生化学	影響なし
	臓器重量	♂：胸腺 g・% ↓ (30) ♀：脾臓 g・% ↑ (30)
	病理組織	♂：脾臓の腫大(30)、前胃扁平上皮過形成(6以上, R30)、前胃壁の肥厚(30)、炎症性細胞浸潤・びらん(30)、 ♀：前胃のびらん(6以上)、前胃扁平上皮過形成(6以上, R30)、前胃壁の肥厚(30)、炎症性細胞浸潤・びらん(30)
	標的臓器	胃、脾臓、赤血球造血系
生殖発生 毒性 主な結果	親動物	影響なし
	児動物	影響なし
NOAEL		反復投与毒性：♂1、♀1 生殖発生毒性：30
	推定根拠	反復投与毒性 ♂♀6以上：前胃扁平上皮過形成 生殖発生毒性 毒性影響なし
NOEL		反復投与毒性：♂1、♀1 生殖発生毒性：30
	推定根拠	反復投与毒性 ♂♀6以上：前胃扁平上皮過形成 生殖発生毒性 影響なし
備考		

本データは、平成 19 年度ハザードデータ評価委員会（独立行政法人製品評価技術基盤機構）で評価された。